

令和3年度研究プロジェクト計画概要

研究種別	■自主研究 16	公益目的事業 17
主査名	高橋孝明 東京大学空間情報科学研究センター教授	
研究テーマ	輸送が都市構造や地域経済に及ぼす影響の経済分析	
<p>本研究プロジェクトは、令和2年度の研究プロジェクト「交通インフラストラクチャーの整備と経済活動の空間立地の経済分析」を継承し、さらに深化・発展させるものである。研究の目的は、輸送のあり方が、都市構造や地域経済といった経済の空間的な側面にどのような影響を及ぼすかを明らかにし、その政策的含意を探ることである。考えられるテーマは多岐にわたるが、代表的なものとして、以下を扱う予定である。</p> <p>第一に、高速道路や新幹線の建設に代表される道路や鉄道の整備が、輸送費の変化等を通して、どのように経済活動の集積の仕方に影響を及ぼすかを明らかにする。具体的には、公共交通の整備がアクセシビリティにどのような影響を及ぼし、結果として都市構造がどのように変化するか、地域間交通の整備によって都市間競争のあり方がどのように変化するか、といったテーマを扱う。第二に、自動車保有と都市構造や地域経済の関係を探る。アメリカ合衆国では、自動車を保有しているかどうかによって雇用されるかが決まるため、個々の家計の状況が自動車保有に大きく依存する。この経済学的な帰結について探り、問題点を明らかにする。第三に、インターネットの普及によって、自動車や鉄道を使った移動が減少し、その結果、都市構造や地域経済が大きく変わってきている。この傾向は、最近の新型感染症の流行によるリモートワークの普及によってさらに強くなっている。この変化について、実態調査と理論的・実証的分析を行う。</p> <p>以上の研究を行うにあたっては、都市・地域経済学や新経済地理学の分析枠組みを用いて新たな理論モデルを構築し、解析的に検討を加える。合わせて、さまざまな空間データを用いて実証分析を行う。その際には、通常の計量経済学的分析に加え、シミュレーションによる分析や自然実験を利用した分析等、多様なアプローチをとる。さらに、それら理論分析・実証分析を踏まえて、交通の整備に関する望ましい政策のあり方を探る。理論的に政策のもたらす便益と費用を明らかにし、最適な政策を求める。同時に、現実のデータを用いて、実際に行われる政策の評価を行い、最適な政策を行ったときの効果を定量的に把握する。その際には、計量経済学の手法に立脚した費用便益分析やシミュレーション分析を行う。</p> <p>研究方法は、交通経済学・都市工学・都市経済学・空間経済学を中心にして、多様な専門分野の研究者が協同して研究を行う。具体的には、毎月研究会を開催し、プロジェクト参加者間の多角的な議論を通じて、経済活動の空間立地を考慮した都市、地域、交通経済の分析を行い、現実の交通政策についての含意を得ることを目指しつつ相互の理解を深めていく。研究会で得られた知見を踏まえて、プロジェクト参加者は、本研究プロジェクトの目的を達成するための理論的・実証的研究を行う。</p>		